

SHIRAKOBATO

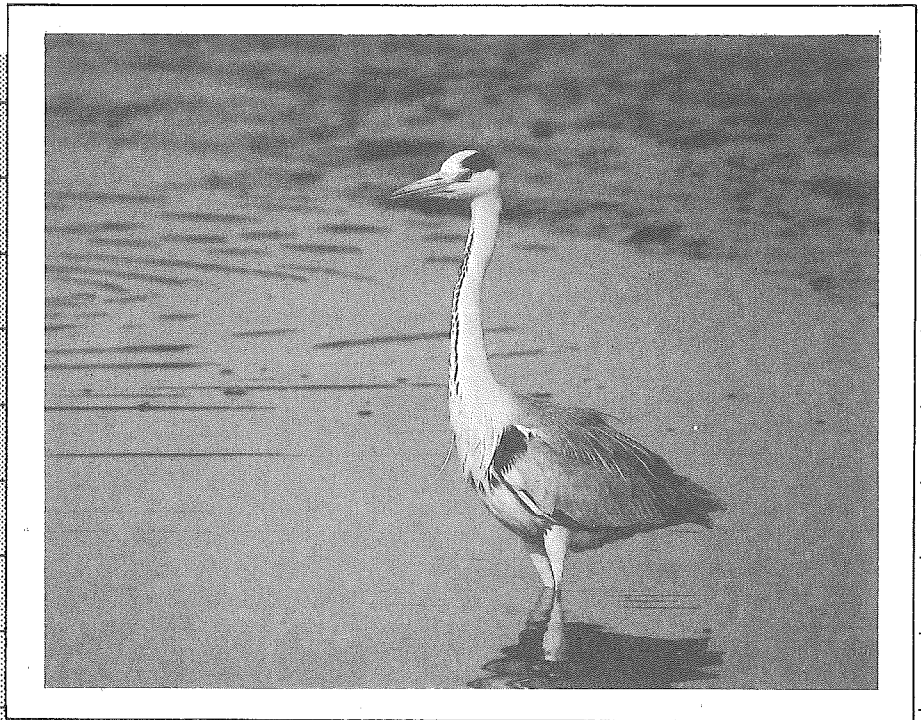
しらこぼと



1994. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 125

日本野鳥の会 埼玉県支部

好き 谷津干潟 好き

パート2

千葉県習志野市の谷津干潟は、干潟としては日本で唯一のラムサール条約指定地となり、今年の7月に自然観察センターがオープンしました。今回の特集は、好き好き「谷津干潟」パート2です。

谷津干潟 NOW!

夏休みで日本中が民族大移動している頃、谷津干潟も鳥たちの帰省ラッシュです。シベリアで繁殖を終えたシギやチドリたちが、暑い日差しの中、夏羽の名残りを留めた羽を干潟で休めています。休息をとり栄養分を蓄えた彼らは、ここから一気に赤道を越えて越冬地まで飛んでいきます。

干潟に珍鳥が飛来することが多いのもこの季節です。脱水症状は覚悟の上、トイレに不自由しながらも一日中ねばって帰ると、顔も腕も真っ赤、シギ・チドリのファンはたいていそんな体験を持っています。でも、そんな心配はなくなりました。空調設備の整った立派な自然観察センターができたからです。望遠鏡を備えた観察コーナーや鳥たちの生活がわかる展示コーナー、干潟の様子を紹介するジオラマなど、手ぶらで出かけても十分に楽しめる施設です。バツが飛び交う中での鳥合わせは昔の話になってしまいました。

備えつけの図鑑をめくりながら鳥の観察をしていただくことにして、ここではもっと干潟の中をのぞきこんでみることにしましょう。

干潟のつぶやき

「ケッ、鳥が目当ての連中にとって、オレたちは脇役にすぎないんだからな。いい気なものだぜ。」

「そうよ! あたしたちのこと人間に言わせると“ターサーセーブツ”だって言うのよ。フン! 自分たちだって空を飛べるわけじゃないし、空気の底に住んでる底生生物じゃないのよ。」

干潟の泥の中で不服そうに話しているのはカニとゴカイのようです。

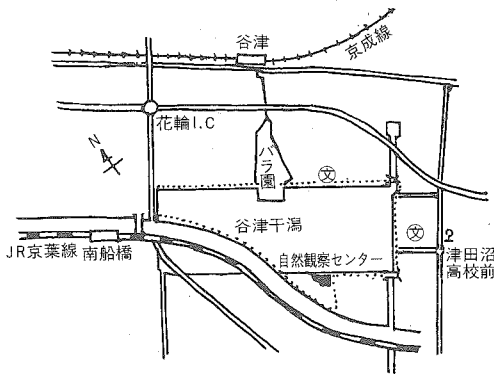
「おや、ホウロクシギのじいさんじゃないの。何か不満があるんじゃないの?」

「ワシは長いこと旅をして、あちこち見てきたが、干潟のそばにたいてい町があつてな。それが広がっていくもんじゃから、干潟がどんどん狭くなってしまふ。住みにくい世の中になつたもんじゃ。」

干潟をじっと見ていると、彼らのそんなつぶやきが聞こえてきそうです。埋立地の真ん中にポツンと取り残され、海が住宅地に出前に来てもとも言われる谷津干潟も、かつては埋め立てられる運命にありました。

保護区への長い道のり

ゴミ捨て場同然の姿で有機物を分解して水を浄化する干潟としての能力も失われ、臭いから早く埋めて欲しいと言われていたのが、かつての谷津干潟でした。そんな時にたった一人でゴミ拾いを始めた人がいました。森田三郎さんです。その昔、「ふかんど」と呼ばれ、子供たちの絶好の遊び場だった干潟を再び蘇生させようという努力は、最初は理解されず変人扱いされる始末でした。新聞配達やタクシーの運転手をやりながら時間を作って



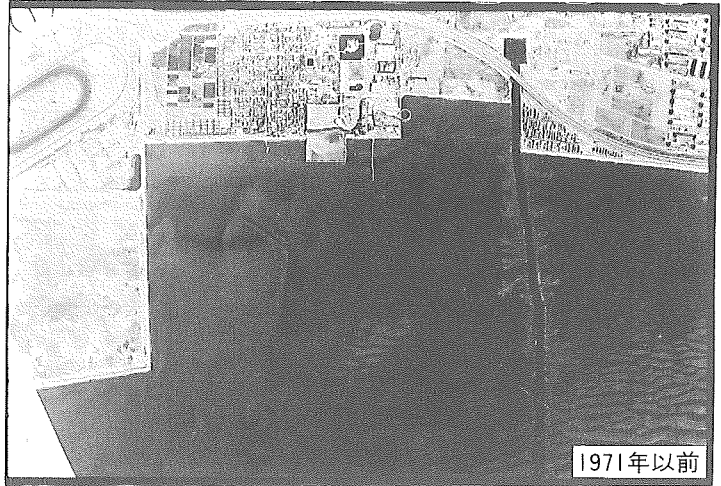
は干潟へ通って素手でゴミを拾う日々でした。やがて近隣の住民の中からも協力者が現れるようになり、「谷津干潟クリーン作戦」と名づけた催しも200回を数えるまでになりました。干潟が蘇ってくると共に理解の輪も広がり、ようやく国設鳥獣保護区に指定されました。ゴミ拾いを始めてから15年後のことです。

鳥を見に来る人は多いけれども、干潟を見る人は多くはないようです。潮が満ちてくると触手を広げて深呼吸をしているように見えるフジツボ、ハサミを上下に動かして体操しているチゴガニ。そんな干潟の住人が鳥たちの生活を支えています。彼らこそ干潟の主役だったのです。遥か昔から繰り返されてきたその姿を見つめながら、干潟を守った人々の“闘争”も語り継いでいきたいと思いません。

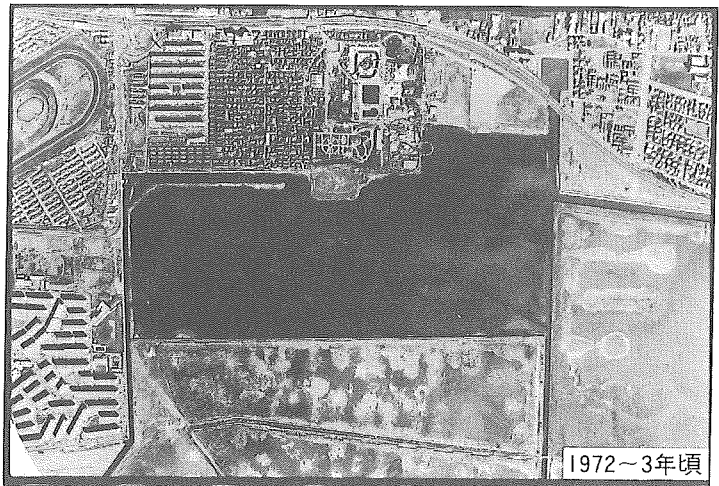
(杉本秀樹)

◆森田三郎さんについては「わが青春の谷津干潟」本田カヨ子著、崙書房に詳しく載っています。

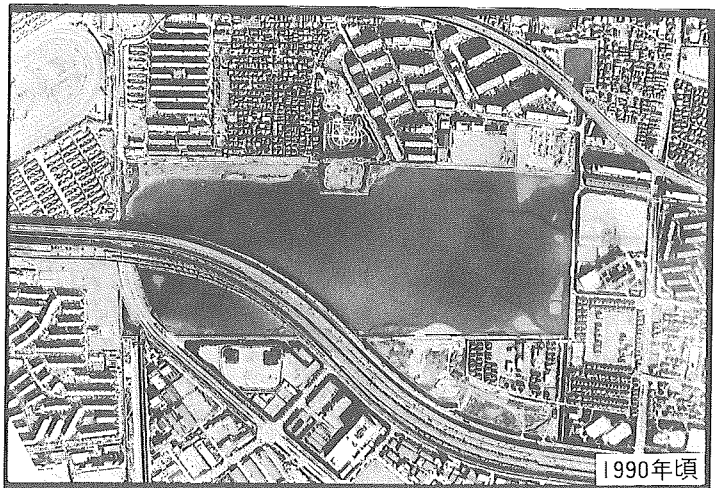
◆自然観察センターの案内
 開館時間：9:00～17:00
 月曜日は休館
 入館料：
 高校生以上 200円
 小中学生 100円



1971年以前



1972～3年頃



1990年頃

(谷津干潟の変遷 写真提供：千葉の干潟を守る会)

日本野鳥の会埼玉県支部探鳥会規定

1. 目的

探鳥会は、野鳥と自然と人のふれあいの場を通して、楽しみながら自然に対する理解を深めあう催しです。そして、日本野鳥の会の活動への賛同を得て、より人間性豊かな社会の実現を目的とします。

2. フィールドマナー

野鳥の生活をおびやかす行為、植物や昆虫などの採集、ゴミの放置など、自然環境を乱す行為は、厳に慎みましょう。

3. 開催

(1) 探鳥会を開催する場合は、役員会においてあらかじめ場所、日時、担当リーダーなどを定め、支部報『しらこぼと』に掲載します。

(2) 探鳥会は原則として小雨決行とします。雨天等の場合、担当リーダーの判断により中止することもあります。

4. 参加者と参加費

(1) 探鳥会には、会員はもちろん、会員でない人も誰でも参加できます。ただし、小学生以下の参加は保護者同伴を原則とします。また、一泊以上の探鳥会及び役員会が指定する探鳥会については、中学生以下は保護者同伴、高校生は親の承諾を必要とします。

(2) 参加者は、会員と中学生以下の会員でない人は50円、高校生以上の会員でない人は100円の参加費を納めてください。

(3) 探鳥会の実情により、参加費の額を変更することができます。その場合は役員会であらかじめ決定し、支部報『しらこぼと』にその旨掲載します。

(4) 探鳥旅行などの参加費も、前項と同様にその都度決定します。

5. 申し込み及び取り消し

(1) 探鳥会は原則としてあらかじめ参加申し込みを必要としません。

(2) あらかじめ参加申し込みを必要とする場合は、その旨を支部報『しらこぼと』に掲載しますので、そこに指定する申し込み方法で申し込んでください。

(3) 参加申込み者が定員を超過した場合は、先着順または抽選によって参加者を決定します。

(4) 参加申し込み者は、取り消しをした場合、特に定めない限り、以下の違約金を支部に納めてください。

① 出発日の10日前までのキャンセルは参加費の20%。

② 出発日の3日前までは参加費の30%。

③ 2日前から出発当日までのキャンセル、及び無断不参加は、参加費の50%。

(5) 参加申し込み者が参加不能となった場合、その人が紹介したかわりの人が参加できます。ただし、指定した申し込み方法と同じ方法で、あらかじめ担当者に必ず連絡してください。この場合は違約金は必要ありません。

6. 安全対策

探鳥会リーダーと参加者は、事故のないよう、それぞれの立場で十分に注意しましょう。万一参加者に事故があった場合は、参加者各自が一切の責を負うものとします。

附則 この規定は昭和60年9月1日から施行します。 [平成3年8月18日改正]

最近、探鳥ツアーを申し込みながら、かなり困ったキャンセルが相次ぎ、担当者は頭を抱えています。

費用の振り込みををぎりぎりまでのばして、担当者が電話をかけると、「ああ、行くのやめました」と平気。そのために定員オーバーで行けなかつた人には申し訳ないし、欠

けた人数で出発せざるを得なくなって、費用が足りなくなってしまう事も。

今後は探鳥会規定の違約金を厳密に適用しなければならぬし、一度でもそういう無責任なキャンセルをした人は、もう一切申し込みを受けない事にしようか、などと話し合っています。

三宅島探鳥会

増田裕司 (川口市)

六時間余りの船旅で島に着くとまず迎えてくれたのが、村営バスに描かれたアカコッコでした。愛敬のある呼び名で島のアイドルの様です。割と恐れる様子もなく人前に現われます。民宿から長太郎池へ行く途中に恰好な観察舞台を見つけました。同行の友と隠れるでもなくたたずんでいると左袖から登場です。何やらしきりにくちばしと両足で畑土をけ散らしながら中央へ。時々見栄を切るのか、我々に目配せするなど余裕でしょうか。今度は右袖からまた一羽現れました。たった二人の立見客はご満悦でした。大路池では耳に心地よい小鳥の声に混じて一際低音で「ウウウー」と、遠くで鳴いているのがカラスバトでした。首筋から背中にかけて美しいという金属光沢がフィールドスコープでさがしても見えません。警戒心が強いのであきらめていたのですが、バス通りを歩いていると意外にも道端の桜に姿を見せてくれたのです。臆病そうにサクランボを食べていました。辺りに注意を払う度に青や緑の光沢が輝きました。

帰路に着いた船上で、オオミズナギドリやオーストンウミツバメの群を追っていると、いきなり前方から黒い影が出現、今迄とは明らかに違うのです。大きな姿を悠々と十字を翻して近付いてきた瞬間、リーダーが「クロアシアホウドリ！」と叫びました。船は無情にも止まってはくれません。無縁の旅鳥は船尾の彼方へ雨雲に消えて行きました。

戸隠・飯綱高原探鳥会

玉井正晴 (蓮田市)

雲一つない好天気恵まれ、期待に胸を膨らませて飯綱高原でバスを降りた。一斉に鳴くセミの声に驚かされたが次第になれて、空のハリオアマツバメ、ノジコ、サンショウクイ、ハチクマ等々でおおいに盛り上がった。

翌朝3時に起きて出かけた。オオジシギは出なかったが、明け方のサエズリのシャワー

に聞き惚れた。戸隠森林植物園に入り、コリ、キビタキ、クロジ等多数の美しい鳥の姿のみならず声にも堪能した。

最後の戸隠牧場で、菱沼リーダーが予め見付けておいてくれたキシバリの巣で親鳥の出入りを皆で見て感激した。丁度繁殖の最盛期で親鳥達が餌を運ぶ姿、コサメビタキ、アカゲラ、ニュウナイスズメ等の多くの鳥の巣や幼鳥を見ることができ、実に興味深かった。

今回の探鳥会では運のいい数人だけが珍鳥を見たのではなく、期待の高かったオオルリを初め主要な鳥を大部分の人が見ることが出来たという誠に幸せな探鳥会であった。

最後に、実に楽しい探鳥会に参加できたことを幹事と参加者の皆様へ感謝致します。

武蔵丘陵森林公園探鳥会

谷津弘子 (川越市)

7月17日は暑い真夏の探鳥会にも拘らず大勢の方々が参加され、探鳥というよりも虫や蝶や草花を見る自然観察会となりました。

森林公園は冬から春にかけて、たくさんの野鳥が観察でき、それだけでも楽しい公園ですが、実はちょっと見方をかえると夏も素晴らしい観察場所なのです。たとえば国蝶のオオムラサキがここでは間近でそれも簡単に見つけられます。蝶たちはコナラなどの樹液が大好物なので、樹の近くで待つだけで良いのです。他にはオニヤンマ、オオシオカラトンボなどトンボもたくさん飛び交い、これも楽しい観察ポイントの一つです。そしてヤマユリ、アキノタムラソウなど野草は園内のあちらこちらで見られ、私達の目を楽しませてくれます。

今回の普段とはちょっと違う探鳥会、楽しい一日を過ごして頂けたでしょうか。秋は蜘蛛や木の実、冬は鳥、春はスマイル、フデリンドウ、など、四季折々の公園で私達は、毎月自然観察会を行っています。どうぞこれから森林公園に是非お出かけ下さい。

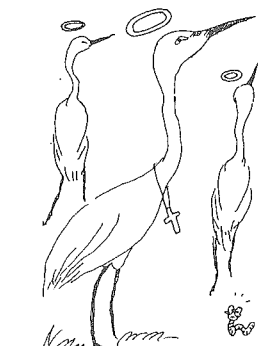
(武蔵丘陵森林公園の自然を考える会)

ツミ
クイナ
コチドリ
メダイチドリ
ムナグロ
キョウジョシギ
トウネン

野鳥情報

- ササゴイ ◇5月14日、深谷市の利根川上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
 アマサギ ◇5月21日、吹上町大芦で約15羽(栗原省二)。
 ツミ ◇5月7日午前8時10分、北本市石戸宿の自然観察公園で1羽。シジウカラを脚で押さえ、「キーキー」さげびながら羽を地面いっぱい散らかしながら食べていた(立岩恒久)。◇5月14日、鴻巣市の東小学校付近のケヤキの木で♂♀各1羽。スズメをむしり食っていた(内藤義雄)。
 クイナ ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で1羽(宇賀神若人)。
 コチドリ ◇5月7日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間の中州で♂♀各1羽。交尾する(中司隆由)。
 メダイチドリ ◇4月16日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。
 ムナグロ ◇5月7日、大宮市塚本の田んぼで18羽、10羽、60羽の3群(中司隆由)。
 ◇5月8日、幸手市上吉羽の中川で76羽(秋間利夫)。
 キョウジョシギ ◇4月29日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。◇5月4日、本庄市の利根川阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。
 トウネン ◇5月18日、本庄市の利根川阪東

- 大橋下流で2羽(古沢紀)。
 ハマシギ ◇5月17日、浦和市秋ヶ瀬のA区で4羽以上(細井要)。
 アオアシシギ ◇5月18日、本庄市の利根川阪東大橋下流で2羽(古沢紀)。
 キアシシギ ◇5月7日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で3羽(中司隆由)。◇5月8日、幸手市上吉羽の中川で4羽(秋間利夫)。
 ソリハシシギ ◇5月7日、深谷市の利根川上武大橋下流でキアシシギ7羽の群れ中に1羽(井上幹男)。
 チュウシャクシギ ◇5月4日、幸手市戸島で3羽(秋間利夫)。◇5月7日、浦和市昭和の荒川左岸河川敷の田んぼで1羽(中司隆由)。◇5月17日、浦和市秋ヶ瀬のA区で3羽(細井要)。
 ダイシャクシギ ◇5月17日、浦和市秋ヶ瀬のA区で1羽(細井要)。
 ツバメチドリ ◇4月29日、本庄市の利根川阪東大橋下流で5羽。今年も繁殖が期待されます(町田好一郎)。
 シロハラトウゾクカモメ ◇5月4日、本庄市の利根川阪東大橋下流で1羽。長い尾がヒラヒラと印象的だった(町田好一郎、井上幹男)。
 アジサシ ◇深谷市の利根川上武大橋下流で2羽(井上幹男)。
 コアジサシ ◇4月16日、戸田市道満荒川第一調節池で3羽(駒崎政雄)。
 カッコウ ◇5月4日、本庄市の利根川阪東大橋下流で1羽(町田好一郎)。◇5月9日、大宮市日進1丁目1丁目で1羽。今年は例年より早い(森本國夫)。◇5月11日、鴻巣市利根川導水路荒川落口近くの屋敷林で1羽(長島岩雄)。◇5月14日、大宮市堀崎町の自宅で鳴き声を聞く(藤原真理)。◇5月14日、深谷市の利根川上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇5月19日、大井町西鶴ヶ岡の自宅付近で1羽(林弥生子)。◇5月20日、吹上町荊原で1羽(栗原省二)。
 ツツドリ ◇4月29日、戸田市道満の釣り堀横の林で赤色型1羽。5月3日、同所で1羽(駒崎政雄)。◇5月3日、飯能市の



夏の空から白いカタマリが... 実体は、
 タイサギの群れ... 13羽も!!
 天使が舞い降りたのかと思ってました

(押川 歳子)

野峠～丸山で1羽(古沢紀)。
 ホトトギス ◇5月25日午前6時、鴻巣市利根川導水路の荒川落口近くの屋敷林で鳴き声を聞く(長島岩雄)。
 アオバズク ◇5月5日、寄居町の自宅で夜鳴き声を聞く(田口浩司)。◇5月9日、鴻巣市の東小学校のケヤキの木で鳴いていた。以来、每晚鳴いている(内藤義雄)。◇5月13日、大宮市日進1丁目目で1羽(森本國夫)。◇5月14日午後8時、浦和市瀬ヶ崎の駒場競技場付近の公園で1羽。高圧電線の上でよく鳴き、時々フライングキャッチをする(鈴木啓紀)。
 ピンズイ ◇5月1日、滑川町の森林公園で1羽。さかんにさえずる(藤原真理)。
 コマドリ ◇5月3日、飯能市の大野峠～丸山で1羽(古沢紀)。
 ノゴマ ◇5月3日～5日、狭山市北入曾の隣家の庭先に♂1羽滞在。北海道に行かずしての面会にニヤニヤ(久保田忠資)。
 コルリ ◇5月4日、寄居町男衾で1羽、さえずりを聞く(田口浩司)。◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂♀各1羽(鈴木啓紀)。
 アカハラ ◇4月22日、飯能市下畑の成木川付近の雑木林で2羽(藤森三治、恵美子)。◇4月28日、浦和市上野田の野田小学校付近の斜面林でさえずりを聞く(藤原寛治)。
 メボソムシクイ ◇5月3日、上尾市の大宮ゴルフコースの森で1羽。さえずりを聞く(立岩恒久)。◇5月14日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。よくさえずる(鈴木啓紀)。
 センダイムシクイ ◇5月1日、滑川町の森林公園で1羽(藤原真理)。◇5月3日、上尾市の中分氷川神社の雑木林で2羽がさ

えずる(立岩恒久)。◇5月4日、浦和市上野田で1羽(藤原寛治)。
 キビタキ ◇5月1日、滑川町の森林公園で1羽。さえずりを聞く(藤原寛治)。◇5月3日午前7時30分、上尾市の中分氷川神社の雑木林で「ポッピリピー、チョットコイ」と美しい声でさえずる(立岩恒久)。◇5月3日、飯能市の大野峠～丸山で1羽(古沢紀)。◇5月4日、寄居町男衾で1羽。さえずりを聞く(田口浩司)。◇5月5日午前7時45分、桶川市若宮の自宅団地前の植え込みで5mの近さで黄色い姿とさえずりを聞く(立岩恒久)。
 オオルリ ◇5月3日、所沢市久米の鳩峯神社に今年もまたやって来た。梢でさえずる♂の下を飛びかう♀の姿も見られた(山影昭三)。
 コサメビタキ ◇浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(鈴木啓紀)。
 エナガ ◇5月1日、滑川町の森林公園で2羽。さかんに餌運び(藤原真理)。
 シジュウカラ ◇5月20日、秩父市の自宅裏のブロック塀に巣作りしたシジュウカラの子供たちが今朝巣立ちました。裏の家のネコが二階のベランダから身を乗り出して睨む中、何とか無事に・・・7羽でした(山岸昭治)。
 ヤマガラ ◇4月7日、浦和市上野田で1羽。さえずる(藤原寛治)。
 イカル ◇5月5日、入間市の入間川豊水橋上流、笹井堰で1羽(古沢紀)。◇5月18日、飯能市下畑の成木川付近の雑木林で1羽(藤森三治、恵美子)。
 コムクドリ ◇4月9日、戸田市道満で♀1羽。4月29日、戸田市道満の釣り堀横の林で♂♀各1羽(駒崎政雄)。

表紙の写真

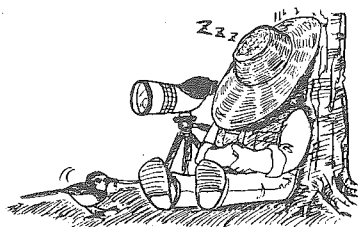
ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

アオサギ (サギ科)

このヒト、ちょっと気取り過ぎ。悠揚迫らずゆったりと歩き、ついと小魚をついばむ。衣装もなかなか。スマートさも優雅さも、足の長さだって私は負けないが、「水辺のダンディー賞」は、このヒトにあげてもよい。

バードウォッチングを始めたばかりの頃、すごく大きな鳥がいる、何だろうと興奮した日が懐かしい。県内の古い記録では冬鳥扱いになっているが、近頃は一年中広い水辺に姿を見せる。 海老原美夫(浦和市)

行事あんない



(渡辺 敦)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会 埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：9月3日（土）

千葉県・船橋海浜公園探鳥会

期日：9月4日（日）

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月4日（日）

◆上記の行事は8月号にて案内しています。
ご覧のうえ、ご参加下さい。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月10日（土）

集合：午前9時 東武鉄道越生線川角駅前

交通：JR川越線大宮7:53→川越8:17

東武東上線川越8:24→坂戸8:37、越生線乗換8:40→川角8:49

東上線寄居8:00→小川町乗継坂戸8:43

担当：中島（康）、松井、高草木、桜庭、高松、新堂、佐藤（進）

見どころ：このコースで、3年ぶりの開催です。カワセミやキセキレイなどの水辺の鳥を中心に楽しめます。初心者の方むきの身近な探鳥会です。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月11日（日）

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー（集合後バスで現地へ）

担当：福井、楠見、小林（み）、伊藤、桜庭、工藤、笠原、嶋田、羽石、倉林

見どころ：猛暑の夏もやっと過ぎ、大久保農耕地は黄金の稲穂が波打つとき。畦道をのんびり歩き、シギやチドリと、旅の途中のヒタキの仲間をどうぞ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月11日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：菱沼（一）、森本、小池、関口、菱沼（洋）、斉藤、根岸、中島（章）、和田、石井（博）

見どころ：9月の記録を見るとカラカラ、大雨、カラカラ、大雨となっている。鳥はカラカラの方がおもしろい。今年は期待できるかな。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日（木・祝）

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自のシギ・チドリ類の県内一斉調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

◆秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、グランド入口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査の為参加費は不要です。雨天でも行います。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月18日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、岡部、嶋田、倉林

見どころ：日差しは強くても、なにか秋らしさが漂ってくる三室です。カモ達が帰ってきました。渡りの途中のシギ・チドリも姿を見せます。ひさしぶりのエゾビタキが斜面林に？来るかな。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（金・祝）

集合：午前9時 秩父鉄道寄居駅北口

交通：秩父鉄道熊谷8:23→寄居8:50、お花畑8:19→寄居9:00、東武東上線川越7:56→小川町乗継→寄居8:47

担当：田口、小池、松井、菱沼（一）、岡安、榎本、林（滋）

見どころ：子育てを終えたタカ達も南へ渡る時季、サシバ、オオタカ、ノスリなどが期待できます。山道を登りますので足擦えはしっかりと。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月24日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局 108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月24日（土）午後2時～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月25日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線所沢8:45発、本川越8:43発に乗車、JR川越線大宮駅からは川越駅下車、徒歩約10分で本川越駅へ

解散：正午頃、稲荷山公園

担当：長谷部、三田、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本

見どころ：カワセミ、キクイモ、ヒガンバナ・・・、秋晴れの下で見る生き物の姿は色鮮やか。くりくりパッチリおめめのエゾビタキにも会えるといいな。

タカの渡り調査

期日：9月25日（日）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで、貴重なデータが得られます。初めての方でもお気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止、この場合10月2日に延期します。調査のため参加費は無料です。

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：佐久間

他に下記の地点で調査します。

◆鐘撞堂山（寄居町）：山頂

◆堂平山（都幾川村）：天文台下の駐車場

◆物見山（東松山市、鳩山町）：山頂展望台
調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方、ご都合のよい時間にお手伝い下さい。

長野県 戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月22日（土）～23日（日）

集合：22日午前10時、JR長野駅改札口前

交通：特急「あさま1号」（上野7:00→大宮7:22→高崎8:10→長野9:51着、または普通電車（高崎7:13→長野9:27着）

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、参加費、保険料等）集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

担当：菱沼（一）、伊藤、岡安

申し込み：往復葉書に住所・氏名・年令・性別・電話番号を明記して、菱沼一充まで。

見どころ：野鳥、紅葉、きのこ、そば、地酒。これだけそろえば大満足。夏鳥の居残り組と冬鳥の先着組の競演。マミチャジナイなどの特別ゲストも出演します。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。

行事報告



93年12月23日(木・休) 年末講演会

参加: 40人 講師: 川内 博(都市鳥研究会)

私たちの一番身近にいるスズメ、ツバメ、カラス等の都市鳥について、普段私たちが見過ごしている所をスライドやデータに基づいて、分りやすく話してくれた。これからも身近な鳥たちにももっと関心を持って接しなければいけないし、環境問題についても、再考しなければいけないと感じた。講演後は、会場の埼玉県民活動センターのレストランで、川内講師を囲んで懇親会が和やかに行われた。(中島康夫)

1月23日(日) 久喜市 昭和池

参加: 39人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ カワラヒワ ハシボソガラス(30種) 年々カモの飛来数の減っている昭和池。1月15日のカウントでは、とうとう4000羽を下回ってしまった。それでも、トモエガモやヨシガモ、アメリカヒドリなどのカモや、ハジロカイツブリも見られ、参加された方たちは満足そうだった。(中島康夫)

1月30日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 14人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オオタカ タゲリ タシギ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス(26種) 晴天に恵まれ、風も無く絶好の探鳥会日和。冬枯れの芦原を行くと、澄み切った青空をバックに、2羽

の成鳥のオオタカがソワリング。それを間近で見ることができ、皆さん大満足。参加者が少なかったが、大変盛り上がった。(中島康夫)

2月19日(土) 茨城県 酒沼・大洗

参加: 32人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ ウミウ ヒメウ ダイサギ コサギ クロサギ アオサギ オオハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ シノリガモ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ ミサゴ トビ チョウゲンボウ コジュケイ オオバン タゲリ ミユビシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ カモメ ウミネコ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボソガラス(60種) 海なし県の住人には、海の鳥を見に行くことは大きな楽しみ。バス旅行の恒例の自己紹介でも、今日見られるであろう鳥への期待で胸一杯ということが感じ取れた。酒沼では、ミサゴが魚を取るシーンが見られた。他にカワアイサの群れやハジロカイツブリの群れなど十分に観察できた。大洗では、7~8羽のシノリガモが間近で見られた。ヒメウやクロサギ、カモメなど大洗ならではの鳥を含めて60種を見ることができ、全員大満足の日だった。(中島康夫)

5月15日(日) 浦和市 三室地区

参加: 23人 天気: 曇一時小雨

カワウ コサギ カルガモ コガモ バン コジュケイ キジ コチドリ キアシシギ イソシギ タシギ アジサシ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ

セッカ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (32種) カッコウ、キアシシギ、そ
して初出現のアジサシが、初夏を知らせてくれた。
鳥たちは子育て。ひなを連れて現われる。少人数
も、和気あいあい楽しいものだ。(楠見邦博)

5月15日(日) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

5月21日(土) 栃木県 奥日光

参加: 37人 天気: 晴

マガモ トビ オオジシギ キジバト カッコウ
アマツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キ
セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カ
ワガラス ミソサザイ コマドリ コルリ ノビ
タキ アカハラ シロハラ ヤブサメ ウグイス
メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシク
イ キクイタダキ キビタキ コサメビタキ エ
ナガ コガラ ヒガラ シジウカラ ゴジュウ
カラ ホオアカ アオジ イカル ニュウナイス
ズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (42種) 初めてのバスでの日
帰り探鳥会。シャクナゲの咲く湯ノ湖畔では、キ
ビタキやメボソムシクイの姿を見、コマドリの声
を聞いた。ヤシオツツジの咲く湯川沿いでは、カ
ワガラスの親子連れやミソサザイがよく見られた。
カッコウの鳴く戦場ヶ原では、梢に止まるオオジ
シギを全員が見られた。(中島康夫)

5月22日(日) 川口市 差間

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コジュ
ケイ キジ キジバト ホトトギス ヒバリ ツ
バメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス
ハシブトガラス (22種) 通船堀でコジュケイがじ
っくり姿を見せてくれ、遠くの斜面林で、ここで
は珍しいホトトギスが鳴いていた。芦原でオオヨ
シキリが、草原ではセッカが鳴き、いよいよ夏の
到来。日差しが強くなる中、芝川で潜水を繰り返
すカイツブリがうらやましかった。(手塚正義)

5月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 34人 天気: 曇後晴

ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ ホシハ
ジロ トビ コジュケイ キジ イカルチドリ
キアシシギ イソシギ キジバト カッコウ カ
ワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジウ
カラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ オナガ ハシブトガラス (33種) 数千
キロの旅の途中のキアシシギ。セグロセキレイは、
子育てで大いそがし。イワツバメは、巣材の土集
め。みんな一生懸命生きているんだなあ。一瞬、
自分の生き方を振り返ったのは、私だけだろうか?
(三田長久)

5月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 16人

赤塚義正、阿部やす子、荒木恒夫、有山智樹、石
井幸男、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、佐
久間博文、佐藤信治、篠原東彦、墨江光子、藤野
富代、松元達夫、谷津弘子、渡辺浩平

5月29日(日) 大滝村 三峰神社

参加: 33人 天気: 晴後曇

ノスリ クマタカ コジュケイ キジバト ホト
トギス コゲラ キセキレイ ミソサザイ コル
リ アカハラ ウグイス キビタキ エナガ コ
ガラ ヒガラ ヤマガラ シジウカラ メジロ
ホオジロ カワラヒワ カケス ハシブトガラス
(22種) 朝の集合場所で、早くもクマタカが登場!
キビタキもバッチリ姿を見ることができました。
人が多く、十分に鳥を見ることができませんでし
たが、目玉商品を見ることができ、何とか探鳥会
らしくなりました。(田口浩司)

5月29日(日) 大宮市 大宮市民の森

参加: 30人 天気: 晴

ゴイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ
バン、コチドリ キジバト カッコウ コゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグ
イス オオヨシキリ シジウカラ カワラヒワ
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (23種) 期待のカッコウは、かすか
に声が聞こえただけ。とうとう姿を見せてくれま
せんでしたが、その分、オオヨシキリとバンのパ
フォーマンスを間近でじっくりと拝見させていた
だきました。(林 慎一)

連絡 中長

●野鳥写真のご応募多数

4月号で募集した『(仮称)埼玉野鳥見て歩き』のための野鳥写真が、合計 430枚も寄せられました。使用されるのはたったの 117枚。作品として優れたものか、種類の特徴がよく分かる方か、悩みながらの選択が進んでいます。掲載されなかったものを、そのまま眠らせてしまうのはあまりにももったいなくて、今後支部の大切な財産として、支部報などに活用させていただきたいと思えます。

この本のためにご応募いただいたわけですから、もしほかの用途には使われたくないとの方は、お手数恐縮ですが、お申し出頂けませんか。

●準備がすすむバードソンチーム

埼玉県支部10周年記念だから、『野鳥見て歩き』で紹介される探鳥コースのいくつかを回ろうかと、コース・時間・期待される鳥種・移動方法・通信手段などを検討中。

「あわよくばついでにライフリストを増やそうかというもくろみは、甘い夢と消え失せた。ハードでソンな役割だ」と、チーム広報担当杉本は言っています。

チーム名は、「埼玉レッズ '94」。

当日の最後は支部事務局に大集合となりそうですが、詳しいことは次号でお知らせ。ご声援をお願いします。

- 9月の土曜日当番(2時~6時)
 - 3日 高草木泰行 中島章二
 - 10日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
 - 17日 内藤義雄 久保田忠資(校正の日)
 - 24日 袋づめの会(1時から)

- 会員数は _____
 - 8月1日現在 2,457人です

活動報告

- 7月23日 8月号校正作業(海老原美夫、工藤洋三、桜庭勇)。
- 7月24日 役員会議(司会・海老原美夫、事業部の体制・新役員の各部への所属・リーダー研修会準備・その他)。
- 7月26日 3種郵便定期監査手続き。
- 7月26日 『見て歩き』出版社と打合わせ。
- 7月27日 テレビ埼玉8月分収録。
- 7月31日 バードソンチーム打合わせ。

編集後記

夏休み中『見て歩き』の原稿整理。もう1週間以上ワープロをたたき続けている。今日も『しらこぼと』編集作業。そろそろワープロから煙が出るかな。(海老原)

この夏、ビールが史上最高の売上げとか。風呂上りのビールは最高だが、その後汗だくになって、なお暑くなってしまうのが困ったもの。ああ、ビールがこわい。(藤原)

会員制度

【正会員】 『野鳥』誌と『しらこぼと』の両方が毎月届きます。

年会費 7,000円 入会金 500円

【普通会員】 『しらこぼと』だけが届きます。

年会費 2,500円 入会金 500円

【家族会員】 正会員や普通会員の家族。『野鳥』誌や『しらこぼと』は、正会員たちに届くものをごらんください。

年会費 500円 入会金なし
便利な会費自動引き落としの制度があります

す。本部普及部会員室03-3485-1566にお問い合わせください。

【ジュニア会員】 中学生以下。『しらこぼと』だけが届きます。

年会費 1,000円 入会金なし
支部独自の制度ですので、本部会員としては登録されていません。本部会員として登録したい人、『野鳥』も読みたい人、高校生以上になった時、あらためて正会員または普通会員としての入会手続きが必要です。

『しらこぼと』1994年9月号(第125号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用